

第2回 東金市下水道事業審議会資料に関する意見及び質問

日本下水道協会 山岸

資料	ページ	項目	意見及び質問
経営戦略 (改定版) 素案	全般	資料のわかりやすさ	市民の方にご覧いただくことを意識する場合、用語集の作成や、わかりやすい概要版の作成など、工夫が必要ではないかと感じました
	5、6	区域図	下水道に関する専門的な図面であることを踏まえると、道路や鉄道の路線、公共施設などのランドマークが分かるように工夫されていると、市民や関係者にとって理解しやすくなると感じました。
	9	収益的収入・支出	収益的収入・収益的支出といった、かなり細かい内容から説明が始まっている印象を受けました。 これらの用語に馴染みのない方には理解が難しい可能性があるため、例えば収益的収支と資本的収支の関係性をイメージ図で示すなど、視覚的に理解を促す工夫があると良いと感じました。 他自治体の例として、大阪府門真市の公共下水道事業経営戦略(令和7年3月改定版)に参考となる資料がありましたので、共有させていただきます。 特に80ページと86ページが該当箇所です。 https://www.city.kadoma.osaka.jp/material/files/group/43/2025keieisennryakukaitaibanhonnpn.pdf
	14	経費回収率(%) 汚水処理原価 (円/m3)	農業集落排水の評価について「優位」とされていますが、これは類似団体や全国平均との比較において相対的に良い水準であるという意味にとどまるのではないかと感じました。 実際には経費回収率が100%を下回っており、汚水処理原価も高い状況にあるため、誤解を招かないような表現の工夫が必要ではないかと思います。
	15	管渠老朽化率(%) 管渠改善率(%)	老朽化率および改善率が0.00%となっているのは、耐用年数を迎えている管渠が現時点で存在しないためと理解しています。 このため、現状の数値だけを見ると誤解を招く可能性があるため、表現の工夫が必要ではないかと感じました。
	38	下水道人口普及率	水道人口普及率のみで比較するのではなく、農業集落排水や合併処理浄化槽を含めた汚水処理人口普及率も併せて示すことで、地域全体の汚水処理の実態がより正確に把握できるのではないかと感じました。
	39	有収率	不明水対策の取組状況について、どのようになっているか気になりました。 必要に応じて、概要の中で触れていただけると、理解が深まるように思います。
	43	地震対策 ①管路施設	地震対策の取組状況について、どのような工法で実施されているのか気になりました。 必要に応じて、そのあたりに触れていただけると、理解が深まるように思います。
	44	地震対策 ②処理場等施設	R12に「機械棟の耐震化」として500,000千円が計上されていますが、具体的にはどのような工事内容を予定されているのでしょうか。
	50	使用料収入の確保	「未接続家屋への水洗化普及活動」とありますが、具体的にどのような取組をされているのかが分かると、より理解が深まるように思いました。
	55	一般会計繰入金	3条と比べて4条の金額が少ないため、棒グラフからその差が読み取りにくい印象を受けました。 視認性を高めるために、作図方法に工夫があるとより分かりやすくなるのではないかと感じました。
人口推計	59～60	基準外繰入額	基準外繰入の金額が大きくなっていますが、市の財政部局との調整や、理解は得られているのでしょうか。
	3	採用ケース	『本市の各種計画では、「④汚水適正処理構想における想定人口(令和4年度改訂)」が採用されていることから、経営戦略(改訂)でも採用する』との説明がありました。 しかし、より低い推計値である社人研のケースも存在する中で、④のケースを採用する理由としては十分な説明になっていないように感じました。 なぜ④を選定したのか、他の推計との考慮の経緯などが示されると、より納得感が得られるのではないかと思います。